

## 大雪災害調査キックオフ・ミーティング

3月28日(金) 9:30~12:30

古名屋ホテル(甲府市), 8F 会議室「チェディー」

### 式次第

1. 挨拶

福原輝幸(日本雪工学会) 上石勲(日本雪氷学会) 和泉薫(科研費)

2. 自己紹介

3. 緊急調査速報(研究者)

1. 気象分野

本田明治(新潟大)

2. 雪崩分野

町田敬(町田建設) 上石勲(防災科研) 和泉薫(新潟大) 中村一樹(防災科研)

3. 建築分野

高橋徹(千葉大)

4. 農業分野

井上聡(農研機構)

森山英樹(農研機構)

5. 交通分野

福原輝幸(福井大)

6. その他の分野

小森次郎(帝京平成大)

上野健一(筑波大)

4. 山梨県内の大雪被害について(山梨県)

城野仁志 総括課長補佐(山梨県防災危機管理課)

河野侯光 課長(山梨県農政部農業技術課)

志村徹 主査(山梨県県土整備部道路管理課)

5. 総合討論

6. 今後の予定(次回ミーティング、平成25年度・科研費実績報告用の原稿提出、研究成果報告会など)

7. 調査活動・広報用ホームページ立ち上げについて

8. 午後の巡検の案内

---

## 大雪災害調査・現地調査

3月28日(金) 14:00~17:00

1. 雪崩現場: 甲府市古閑町(県道36号) 富士河口湖町精進(精進キャンプ場)

2. 農業施設: 甲州市塩山下萩原(やまいち農園) 山梨市落合(JAフルーツ山梨共撰場)

大雪災害調査キックオフミーティング及び現地調査・参加者リスト

氏名	会議(午前)	巡検(午後)	所属
和泉 薫			新潟大学災害・復興科学研究所
上野 健一			筑波大学生命環境系大気科学分野
河島 克久			新潟大学災害・復興科学研究所
伊豫部 勉			新潟大学災害・復興科学研究所
上石 勲			独立行政法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター
小杉 健二			独立行政法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄雪氷環境実験所
沼野 夏生			東北工業大学 工学部 建築学科
高橋 徹			千葉大学大学院工学研究科
福原 輝幸			福井大学大学院工学研究科建築建設工学専攻
井上 聡			農研機構北海道農業研究センター生産環境研究領域
森山 英樹			農研機構農村工学研究所農業施設研究室
井良沢 道也			岩手大学農学部共生環境課程砂防学研究室
若井 明彦			群馬大学理工学研究院環境創生部門
西村 浩一			名古屋大学大学院環境学研究科
山口 悟			独立行政法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター
小田 憲一			日本大学理工学部土木工学科
本田 明治			新潟大学理学部自然環境科学科
山崎 哲			独立行政法人海洋研究開発機構・地球シミュレータセンター
松元 高峰			新潟大学災害・復興科学研究所
池田 慎二			独立行政法人土木研究所雪崩・地すべり研究センター
安達 聖			独立行政法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター

( 続き )

氏 名	会議(午前)	巡検(午後)	所属
中村 一樹			独立行政法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄雪氷環境実験所
本吉 弘岐			独立行政法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター
荒木 功平			山梨大学大学院 医学工学総合研究部 社会システム工学系
藤森 弘晃			山梨大学(学部3年生)
北爪 貴史			東電設計株式会社
佐々木 邦明			山梨大学工学部土木環境工学科
小森 次郎			帝京平成大学現代ライフ学部経営マネジメント学科
安藤 直貴			筑波大学生命環境系大気科学分野
外狩 麻子			JR 東日本防災研究所
川本 義海			福井大学大学院工学研究科原子力・エネルギー安全工学専攻地域共生工学分野
常松 佳恵			名古屋大学大学院環境学研究科
原田 裕介			独立行政法人土木研究所寒地土木研究所
竹内 由香里			独立行政法人森林総合研究所十日町試験地
町田 敬			町田建設
上之 和人			電力中央研究所
梨本 真			電力中央研究所
長田 亮治			甲府市役所砂防課
城野 仁志			山梨県防災危機管理課
志村 徹			山梨県県土整備部道路管理課
河野 侯光			山梨県農政部農業技術課
櫻田 学			山梨県砂防課

特別研究促進費

研究課題

「2014年2月14-16日の関東甲信地方を中心とした広域雪氷災害に関する調査研究」

研究組織

(研究代表者)

氏名	所属・職名	(専門分野)	役割分担
和泉 薫	新潟大学・災害・復興科学研究所・教授	(雪氷防災学)	研究総括

(研究分担者\*及び連携研究者)

氏名	所属・職名	(専門分野)	役割分担
中井 専人	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター・総括主任研究員(気象学)	メソ気象解析	
上野 健一	筑波大学生命環境系・准教授(気象学・気候学)	メソ気象解析	
河島 克久	新潟大学災害・復興科学研究所・准教授(自然災害科学・雪氷学)	積雪特性解析と防災情報	
伊豫部 勉	新潟大学災害・復興科学研究所・特任助教(雪氷水文科学)	広域積雪分布解析	
上石 勲	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター・総括主任研究員(雪氷防災学)	雪崩災害調査と道路交通被害調査	
小杉 健二	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター・総括主任研究員(雪氷防災学)	雪崩災害調査と防減災対策	
秋山 一弥	土木研究所雪崩・地すべり研究センター・上席研究員(雪氷防災学)	雪崩災害調査と防減災対策	
井良沢 道也	岩手大学農学部・教授(砂防学・森林雪氷水文学)	融雪解析	
後藤 聡	山梨大学医学工学総合研究部・准教授(地盤防災工学)	融雪災害調査と防減災対策	
若井 明彦	群馬大学理工学研究院・教授(地盤工学)	融雪災害調査と防減災対策	
沼野 夏生	東北工業大学工学部・教授(都市・地域計画)	雪害構造解析	
上村 靖司	長岡技術科学大学機械系・准教授(雪氷工学)	生活関連雪害調査とライフライン	
高橋 徹	千葉大学大学院工学研究科・教授(建築構造学)	建築構造物雪害調査	
植松 康	東北大学大学院工学研究科・教授(建築構造学)	建築構造物雪害調査	
高倉 政寛	北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所・主査(環境)(建築構造)	建築構造物雪害調査	
井上 聡	農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター・主任研究員(農業気象学)	農業被害解析	
森山 英樹	農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所・主任研究員(農業施設工学)	農業被害調査	
福原 輝幸	福井大学大学院工学研究科・教授(土木環境工学)	道路交通被害調査と対策	
山口 悟	防災科学技術研究所雪氷防災研究センター・主任研究員(雪氷学)	雪崩災害予測システムの検証	
西村 浩一	名古屋大学大学院環境学研究科・教授(雪氷物理学)	雪崩ハザードマップ	
小田 憲一	日本大学理工学部・助教(雪崩数値解析)	雪崩運動モデル解析	
本田 明治	新潟大学自然科学系・准教授(気象学)	数値モデルを用いた再現実験及び感度実験	
山崎 哲	海洋研究開発機構地球シミュレーションセンター・研究員(総観規模大気力学)	大規模偏西風蛇行による顕著大気現象解析	

## 午後の巡検

参加者・乗車名簿

車(No1)	人数	名前	所属
	1	伊豫部	新潟大
	2	和泉	新潟大
	3	竹内	森林総研
	4	外狩	JR

車(No2)	人数	名前	所属
	1	安達	防災科研
	2	中村	防災科研
	3	小杉	防災科研
	4	上之	電中研

車(No3)	人数	名前	所属
	1	河島	新潟大
	2	福原	福井大
	3	川本	福井大
	4	高橋	千葉大
	5	井良沢	岩手大
	6	松元	新潟大

車(No4)	人数	名前	所属
	1	山口	防災科研
	2	本吉	防災科研
	3	上石	防災科研
	4	若井	群馬大
	5	井上	農研機構
	6	森山	農研機構

車(No5)	人数	名前	所属
	1	上野	筑波大
	2	安藤	筑波大
	3	本田	新潟大
	4	山崎	Jamstec

車(No6)	人数	名前	所属
	1	荒木	山梨大
	2	学生	山梨大
	3	学生	山梨大

車(No7)	人数	名前	所属
	1	小森	帝京平成大学
	2	常松	名古屋大

車(No8)	人数	名前	所属
	1	町田	町田建設
	2	西村	名古屋大

車(No9)	人数	名前	所属
	1	宮崎	クライメットEng.
	2	池田	土木研究所
	3	原田	寒地土研

「2014年2月14-16日の関東甲信地方を中心とした広域雪氷災害に関する調査研究」  
甲府市・富士五湖周辺雪崩発生箇所 巡検資料

見学予定地

- ・ 甲府市古関町(国道358号線・県道36号線合流地点付近)
- ・ 富士河口湖町精進(精進キャンプ場周辺)
- ・ 富士河口湖町西湖(大和キャンプ場・西湖漁協周辺)



図1 巡検地域概観図

STOP 1 甲府市古関町(国道 358 号線・県道 36 号線合流地点付近)



図2 甲府市古関町雪崩発生位置 (水色の領域では小規模な雪崩が連続的に発生)

発生日時: 2月14日19:15 通報

雪崩は県道 36 号線を越えて谷底まで流下  
乗用車3台とタイヤブル1台(いずれの車も国道 358 号線方向へ走っていた)がスタック  
乗員が自力で脱出した後に、複数の大雪崩により車両埋没



図3 2月22日夕方における堆積区の状況  
この時点では車両3台がまだデブリに埋没中 (松元撮影)



図4 車両埋没現場南側の路肩(図2の水色で囲んだ領域) (2月23日夕方 松元撮影)

#### 【大雪再び】

## 雪崩、車4台巻き込まれる 甲府、全員を救助

2014.2.15 18:34 【自然災害】

14日午後7時ごろ、甲府市古閑町の芦川大橋付近の県道で雪崩が発生し、車4台が巻き込まれた。30～50代の男性運転手4人は一時身動きが取れなくなったが、15日昼までに全員救助された。命に別条はないとみられる。

甲府地区消防本部や南甲府署によると、消防隊が自力で車外に脱出した50代の2人を先に救助。残る2人については地元消防だけでは対応不可能として陸上自衛隊に災害派遣を要請したが、到着前の15日午後1時ごろ、甲府地区消防本部が30代と50代の2人を救助し県立中央病院に搬送した。

また、県などによると、同県身延町の国道52号で、静岡学園中(静岡市)の生徒ら約150人が乗った観光バスが立ち往生した。中央自動車道の大月インターチェンジ付近でも約400台が立ち往生し、近くのパーキングエリアに随時避難した。



記録的な大雪となった甲府市=15日午後、共同通信社ヘリから

MSN 産経ニュースサイト 2月15日

## STOP 2 富士河口湖町精進(精進キャンプ場周辺)



図5 精進湖北～西岸における雪崩発生位置

### < 表層雪崩A >

発生日時: 2月15日

山田屋コンベンションホール1階西側を埋めて窓ガラスが破損

### < 表層雪崩B >

発生日時: 2月14日21:30ころ 数回の雪崩という可能性あり

金風荘すぐ南側(登山道階段になっているところ)に堆積し、自動販売機が破損

金風荘の2階山側の洗面所・階段の窓から室内に流入(雪崩Bと同じか不詳)

### < 表層雪崩C >

発生日時: 2月15日

### < 表層雪崩D >

発生日時: 2月15日6:30ころ

キャンプ場の炊事場2棟、小さめのバンガロー3棟、シャワー室1棟が全壊

管理人宅2階山側の部屋の窓から雪崩が室内に流入

女性1人埋没負傷(山梨日日新聞記事参照)

このほかに「精進レイクホテル」で「15日午前4時頃、雪崩が発生。ホテル1階のガラス窓を突き破って建物の中にも雪が入ってきた。ホテルの従業員や宿泊客として滞在中の慶応大学の学生82名が孤立している。」という情報が広く報じられたが、雪崩ではなく、落下した屋根雪が窓から入った可能性が高い?



図6 表層雪崩Aのデブリ (2月23日午前 松元撮影)



図7 表層雪崩Bのデブリ (2月23日午前 和泉撮影)



図8 表層雪崩Cのデブリ (2月23日午前 松元撮影)



図9 表層雪崩Dによる精進キャンプ場の被災状況 (2月23日午前 和泉撮影)



図10 表層雪崩Dの発生区を北東側から望む (2月23日午前 松元撮影)

山 梨 日 日 新

「気付いたら雪で肩まで埋まっていた。山梨県内で相次ぐ雪崩。富士河口湖町の精進湖畔で夫とコテージを営む女性(67)は15日朝、部屋で寝ていたところを雪崩に襲われた。「九死に一生を得るとはこのことか」と思った。女性が当時の恐怖を語った。

部屋で就寝中に雪崩 九死に一生 「気付いたら肩まで雪」

女性の部屋は裏山の急斜面に接する建物の2階。6畳間で、女性は窓際のベッドで横になっていた。14日から降り続く雪で、既に1階部分は雪に埋まっていた。

「初めは地震かと思った」。15日午前6時半ごろ、地鳴りのような音で目が覚めた。部屋全体が揺れ、窓の

方からカーテン越しにびきびきと音が聞こえてきた。その瞬間、タムが決壊したように膨大な量の雪が部屋になだれ込み、一気に肩まで埋まった。布団の間から手を引き抜いて逃げたのが不思議だった。

雪には鮮血が飛び散り、バシヤマは血だらけ。階段を伝って1階にまでなだれ込んでいた雪を見て、ひきが震えた。寝る場所があと3秒ずれていたら、隣室に息子がいなかったら、「一生きていたのが不思議だった」。

「初めは地震かと思った」。15日午前6時半ごろ、地鳴りのような音で目が覚めた。部屋全体が揺れ、窓の脇を抱えられ、脱出した。

〈前島文彦〉

### STOP 3 富士河口湖町西湖(西湖漁協周辺)



図11 西湖南岸における雪崩発生位置

#### < 表層雪崩A >

発生日時: 2月14日夜から15日朝の間

デブリ幅 約30m; デブリ高 約3m

西湖漁業協同組合母屋の1階シャッター等が破損

屋外養魚池内にデブリが堆積してヒメマス<sup>①</sup>の成魚・稚魚約8万匹が死滅

#### < 表層雪崩B >

デブリ幅 約37m; デブリ高 約6m

県道710号線が埋没



図12 西湖漁協(堆積区)から表層雪崩Aの走路を見る (2月23日午前 和泉撮影)



図13 屋外養魚池の状況 (2月23日午前 松元撮影)



図14 表層雪崩Bのデブリ (2月23日午前 松元撮影)



図15 表層雪崩B・Cの発生区・走路を望む (2月23日午前 和泉撮影)